

相殿應神天皇

舊と門野明神と稱し、近世太宮とも、又三島明神とも稱す、創立年代詳ならず、但し、古老青野村三島ノ神の妹と傳へ、應永十年、文明十四年、其他建武二年、永享五年の棟札を藏す、志稿に云く、
「阿米都加多比咩命神社、云々、下小野村三島神社なる可し云々、往古は門野明神と稱すと云ふ、今社邊を門野或は門小野と云ふ、共に加多の神名の遺れるならむ」

といへり、是より當社を以て、式社阿米都加多比咩命神社に擬するものなりしが、特選神名牒は、「豆志に、云々」と云るによりて、足柄縣注進には下小野村と定めたれど、門野明神又門野などの稱によりて加多比賣に由ありと云るは信がたき心地せらるれば從はず」といへり、後考を俟つ、古來上下小野の總鎮守にして、明治六年二月郷社に列す、社殿は本殿、拜殿の二字を備へ、境内七百七十一坪（官有地第一種）を有す。

例祭日 十一月二日

指定年月日

神饌幣帛料供進

會計法適用 明治四十一年九月二十五日
指定年月日 告示第四百三十四號

氏子 戸數 九十七戸

崇敬者員數 未詳

○ 静岡縣伊豆國賀茂郡松崎村大字宮内字宮ノ西

郷社 伊那上神社

祭神事代主

舊と仲神社、又は上之神社、三島宮とも稱す、創立年代詳ならず、但し、弘仁八年三島大神を分祀せりとも、伊豫國より奉遷せりとも傳ふ、往昔は國內有數の大社にして、田方郡田京深澤神社寛永中文書に、伊豆五大社の一に數へられ、又伊豆日記に、上古は國府三島神社に次ぐ大社なりしが云々と見えたり、源賴朝以來代々の將軍厚く崇敬して、社領を寄進せるが、後ち、小田原北條氏五世の間、毎年當社より神符を納めしを以て、當地より小田原に至る路次の傳馬給助のこと、伊豆名迹志等に見えたり、天正、慶長兩度の火災に社頭衰頽し、舊記又焼燬せしが、内古文書八通僅に災を免かれたり、即ち、文治元年、正中二年、天正十四年、治承五年、正中二年、文和四年、應安三年、同二十七年、應永二年、寶德四年の八通とす、内始の三通は、全文志に見えたる、衰へたりと雖も舊除地十五石を有せり、古來賀茂郷の總社と稱せられ、明治六年八月郷社に列す。

社殿は本殿、拜殿、籠屋を具へ、境内は八百七十五坪（官有地第一種）綠樹鬱蒼たり。
豆州志、當社を式の伊那上神社に擬せしより、學者多くこれに依りしが、豆州志稿之れを否定して、式の仲神社（小社）なりとし、神階帳の從四位上おほとしの明神とせり、其說に云く、
「上之神社、式内仲神社なる可し、此地和名録所載那賀郷にして、當社文治元年文書に、仁科庄那賀郷三島

宮書同之と記し、往昔那賀郷の總社と稱す、仲、那賀、國音通す、慶長中大久保長安寄附の金燈籠に、仲神社と鏽す、當時迄は、其稱存せしを知る可し、舊說式内伊那上神社に當てたるは、上之神社の稱より謬りたる